

## 「レナード彗星 (1)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター 研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

「彗星のごとく現れ、彗星のごとく去っていく・・・」  
太陽系天体の一種である彗星は、まさにそのようにふるまう。私は今までにいくつもの彗星を観て、撮影してきたが、もう一度地球のそばまで戻ってきた彗星は一つもない。



(百武彗星／八ヶ岳山麓)

1996 年に出現し、全天の半分をも覆う長大な尾で「大化け」した「百武彗星」(ひゃくたけすいせい)は、多くの天文ファンを生み出した。しかし、次回地球に近づくのは、西暦 115778 年頃で、ちょっと生きて待つ自信がない。



(ヘールボップ彗星／青森県十和田市)

百武の翌年の 1997 年に地球に接近し、これもまたすばらしい姿を見せて、多くの天文ファンを魅了した

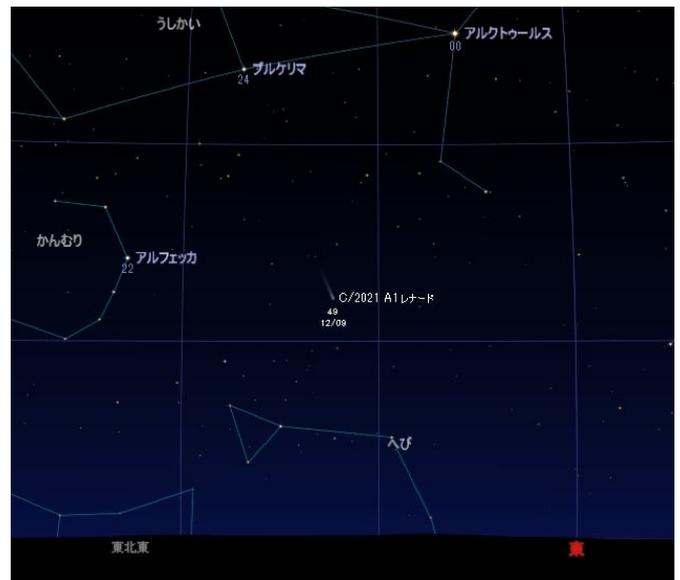
「ヘール・ボップ彗星」は、百武彗星と比較すると公転周期はずっと短く、次回地球に接近するのは、西暦 4385 年頃である。あと少し待てば見られる。



(ラブジョイ彗星とプレアデス／北軽井沢)

その後も、ラブジョイ彗星、ルーリン彗星など、いくつもの彗星を撮影したが、北半球で百武やヘール・ボップのような「大彗星」にはなかなか出会えなかった。実はこの 12 月にも、肉眼で見えそうな彗星が接近している。「レナード彗星」である。

彗星も太陽系天体の一つだが、コマと呼ばれる彗星の本体は非常に小さく、彗星自身は発光しないので、太陽から遠い位置では、大望遠鏡でないと観測できない。私のようなアマチュア天体写真「家」が撮影できるようになるのは、太陽にも地球にも近い位置に来た時だけだ。それが 12 月中旬なのだ。



図は、2021 年 12 月 9 日未明 (午前 4 時) の東の空である。すでに春の星座が昇り始めている。うしかい座の下、かんむり座の右に、短く尾をひいた「レナード彗星」が見える。等級は 4.9 等。辛うじて肉眼で見えそうだが、東京都内ではちょっと難しそうだ。